



歴史・概要 ~その1~

HISTORY

きゅうせとけじゅうたくしゅおく

旧瀬戸邸（登録名称：旧瀬戸家住宅主屋）について

【1952（昭和27年）建造】



旧瀬戸邸は、機船底引き網漁業などを営んでいた瀬戸常蔵が、昭和27年に、常蔵の住宅主屋として秋田大工の佐藤東作により設計・施行されました。

建物は、明治期から大正期にみられた旅館建築を彷彿させるデザインで、和と洋の折衷要素を持ち合わせる戦後の近代和風建築として評価されています。

建物は平成19年12月に常蔵の遺族から稚内市に寄贈となり、平成23年には建物の修復事業を実施いたしました。

その後、平成24年4月より建物の一般公開を開始し、平成25年6月には国の登録有形文化財に「旧瀬戸家住宅主屋」の名称で登録されています。

<施設概要>

土地 ・ 1,079.45 m²（約 326.53 坪）

建物 ・ 主屋 木造 2 階建

1 階	建築面積	270.95 m ²
2 階	面積	160.16 m ²
（延べ面積）		431.591 m ²